

# 黒大豆 栽培のポイント

## 〈初期管理〉

### 1. ほ場の準備

日当たりが良く、用排水の便利なほ場が理想的です。大豆は出芽時に湿害を受けると、豆が腐ったり、初期の生育が悪く不揃いとなって、その後の生育にも影響を及ぼします。排水の悪いほ場では、ほ場の周囲と5～6m間隔に必ず排水溝を設けましょう。また、排水が悪いほ場では、畦を立ててから播種や定植をするとよいでしょう。

### 2. 播種～移植

#### (1) 移植栽培

##### ●播種時期

6月15日～20日が播種適期です。播種及び移植時期が早すぎると茎葉の生育が過多になります。適期に播種しましょう。

##### ●種子量

10a当たり2kg程度。

##### ●育苗方法

###### ・苗床育苗の場合

8×4cm間隔で播種。種子が隠れる程度に覆土し、その上に焼きすくもを薄く散布します。十分かん水し、鳥害防止のため寒冷紗等で覆います。

###### ・セル成型育苗の場合

128穴なら18枚、72穴なら30枚程度必要です。専用の培土を使いましょう。受け用トレイは水稻育苗箱が使用できます。(穴の多いものがよい)

##### ●移植時期

播種10～14日後の初生葉展開時が移植適期です。

##### ●移植方法

苗の子葉が隠れない程度に深植えします。苗床育苗の場合は根が乾かないよう土を付けたまま移植します。

##### ●条間、株間

条間120cm×株間50cm

#### (2) 直播栽培

##### ●播種時期

6月10～25日が播種適期です。

##### ●種子量

10a当たり2～2.5kg。1粒播きとし、残った種子で補植用の苗を作ります。

●条間、株間

条間120cm×株間50cm

3. 鳥害防除

直播栽培の場合は、防鳥テープや防鳥糸を張るか、薬剤を処理した種子を播種します。

※薬剤については、JA栽培暦を参考にしてください。

4. 除草対策

播種、移植前に十分耕うんを行い、直播栽培の場合は播種直後に土壌処理型除草剤を散布します。

5. 中耕、土寄せ

●1回目

直播栽培の場合は、本葉3葉期頃（播種後20日前後）に行います。

●2回目

移植、直播栽培ともに本葉5～7葉期頃（播種後30日前後）に行います。

## 〈7月～9月の管理〉

1. かん水

初期生育では湿害に弱い一方で、開花期以降は多くの水を要求します。この時期の干ばつは莢着きを低下させる要因となります。7月下旬～8月下旬頃に晴天が10日以上も続くような時には、1週間おきを目安に、夜間に畝間かん水を行います。長時間滞水すると根を傷め、生育を阻害することがあります。

2. 追肥

生育量の増大する開花期以降は、急激に黒大豆の窒素吸収量が増大するため、開花始めの窒素追肥が有効です。

- ・追肥時期：開花始め～開花10日後頃
- ・施肥量：窒素成分2～4kg/10a
- ・施肥位置：畝間

ただし、堆肥が十分入っている圃場や基肥に緩効性肥料（一発型肥料）を使用している場合は、基本的に追肥は不要です。

3. 病虫害防除 ※薬剤については、JA栽培暦を参考にしてください。

病虫害防除は早期発見、早期防除が基本です。なお、「えだまめ」として栽培する場合は、農薬の使用に注意が必要です。「大豆」「豆類」に登録があっても「えだまめ」「未成熟豆類」に登録がなければ使用できません。

●ウイルス病

ダイズモザイクウイルスによりモザイク病が発生します。罹病種子が第1次伝染源となり、その後はアブラムシ類の媒介によって、発病株から健全株へと伝染し、モザイク等の

症状が現れます。最終的に収量が低下し、粒も小さくなります。種子更新や発病株の早期抜き取り、アブラムシ類の防除を行います。

#### ●茎疫病

土壌伝染性の立枯性病害で、降雨によって大豆に感染します。全生育期間にわたって発病し、地際の茎・根部に病斑を生じさせます。排水の悪いほ場で発生が多く、かん水が発病を助長することがあります。排水対策や種子処理薬剤の利用、生育期の防除並びに被害株の早期に撤去を行います。

#### ●シンクイムシ類・カメムシ類

子実を直接食害し、収量・品質への影響が大きい。莢着き始めから子実肥大初期（8月下旬～9月下旬）に、10日おきに2～3回薬剤散布します。

#### ●ハスモンヨトウ

8月～9月に葉を食害します。幼虫が小さいうちに薬剤散布を行うと効果的です。

## 〈収穫・乾燥調製〉

※黒大豆を枝豆として収穫する場合

莢が十分太って甘みが増す10月10日～20日頃が一番おいしい時期です。

### 1. 黒大豆の収穫作業

収穫は、莢が黄変し莢がよく乾いて褐色になる11月下旬以降に行います。豆がまだ乾いていないうちに株切りを行うと、しわ豆が増えたり、小粒になったりします。

### 2. 乾燥

黒大豆は刈取直後は水分が高いため、脱粒までに十分な予備乾燥が必要です。乾燥が不十分な状態で脱粒すると、豆を傷めやすくなります。乾燥方法としては、主に次の方法があります。

#### ●島立て

刈り取った株を逆さにして3～4株立てかけて、主に株元を乾かす方法です。天候が良いと、島立てだけで脱粒できるぐらい乾きますが、天候が悪くと、乾燥が進まず地面についたところの品質が低下する場合があります。

#### ●架干し（はで干し）

刈り取った後、2～3日地干しを行い、10～20日間架干しを行います。雨に当たらないようビニール等で被覆すると、より効果的です。

#### ●ビニルハウス

刈り取った株を雨よけハウスの中に島立てするか、あまり重ならない程度に広げます。ハウス内の風通しをよくするなど、過乾燥にならないよう注意が必要です。

### 3. 脱粒

脱粒する前に異なる位置の莢を何莢かむいて子実に爪を立て、爪の後がわずかに残る程

度になったのを確認してから脱粒を行いましょう。高水分の状態ですと脱粒機が詰まったり、脱粒後の仕上げ乾燥に時間を要します。反対に過乾燥で脱粒すると豆が割れやすくなります。

#### 4. 仕上げ乾燥、選別

脱粒後は直射日光に当たらない場所でムシロなどにひろげ、爪が立たなくなる程度までゆっくり乾燥させましょう。

選粒機の利用及び手よりで虫食い粒、皮切れ粒、へん平粒、しわ粒等を出荷基準に応じて取り除きます。